資料６

米取引に関する有識者との懇談会（第７回）概要

１．日時：平成24年４月17日（火）13:30～15:30

２．場所：農林水産省第３特別会議室

３．概要：

（平成23年産米をめぐる状況について）

○　23年産米の取引状況は総計では対前年産で同程度だが、22年産米には古米があったので、トータルでの取引量は落ちているとの意見。

○　ＪＡは集荷できているが連合会に集まらないケースが見られるほか、大型ＪＡの直売が増えているとの意見。

○　直接取引の高まりや、生産者が縁故米を多く抱えるようになったことが集荷率の低下に影響しているのではないかとの意見。

○　不安を煽る様々なニュースが流れている中で、流通段階は不安を抱えており、米が流通しづらい状況になっているとの意見。

○　流通在庫が逼迫していることから、卸は販売制限を検討するような状況であるため、政府備蓄米を放出して欲しいとの意見。

○　実収は作況より低いという実感があり、実収量についても減少している感覚があるとの意見。

○　インターネットでの購入について、以下のような意見。

・　消費者の購入にどの程度影響を与えているのかは分からない

・　（元々少量ではあるが）取扱量が前年比で倍以上に増えた

・　リーズナブルな価格を求める人はスーパーで購入している

・　多忙な共働き世帯などで、一定の活用がされている

（平成24年産米に係る対応等について）

○　戸別所得補償に加入していた生産者は手取りが確保できたので、２４年産米においてもきちんと加入するのではないかとの意見。

○　２４年産米については、残雪の影響等で育苗が遅れているケースがあり、影響が懸念されるとの意見。

○　２４年産米についても高値スタートの可能性が指摘されており、結果として米離れが進むことが懸念されるとの意見。

○　生産者が加工用米や備蓄米の生産に熱心ではないが、食料自給率向上についてどう考えているのかとの意見。

（その他）

○　伝統的な統計手法だけでなく、定性的な要素も踏まえて状況を把握できるようにする必要があるとの意見。

－以上－